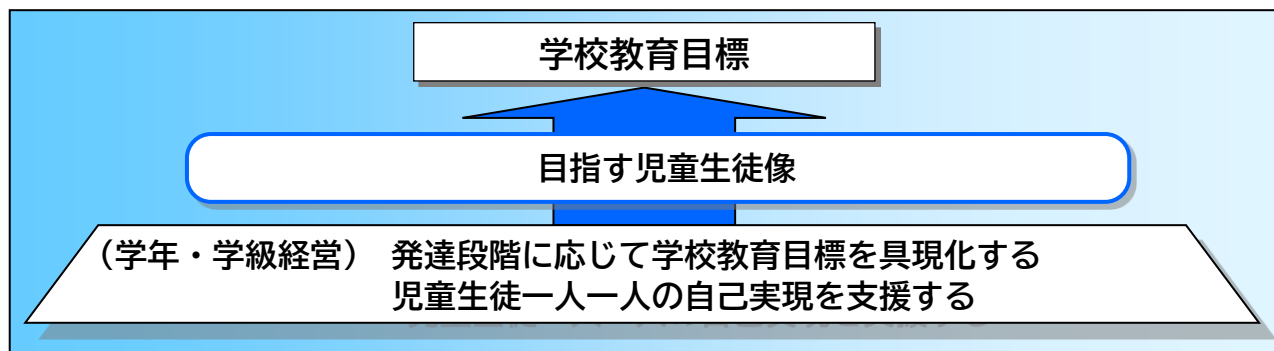


3 学年・学級経営

学年経営は、学校教育目標の具現化を目指し、学年で実施する活動の企画・運営を行ったり、諸課題の解決・改善を図ったりして、学校経営の中核となる重要な役割をもつ。また、学級経営は、学習指導や生徒指導により、学級内の望ましい人間関係を築き、教育活動の成果があがるようにしていく取組である。学年・学級経営の充実が、学校教育目標の具現化につながる。



1 学校教育目標を具現化する学年経営

学年内の教員の共通理解のもと、学校教育目標の具現化に向けて同一步調で指導や対応をすることが大切である。そのためには、一人一人の教員の個性や経験を生かし、学年内で何でも相談できる雰囲気を醸成する必要がある。そして、児童生徒の実態を踏まえて指導するとともに、その指導方法について教員間で共有し意見を交流することで、常に評価・改善していくことが大切である。

【学年経営を推進していく上での留意点】

- 学年としての教育目標の設定 …… 前年度の評価、学校教育目標、学年の実態、教員の願い、保護者や地域住民の願い等を踏まえる。
- リーダーシップとチームワーク …… 学年主任の経営手腕を発揮し、学年内の教員による協働体制を構築する。
- 学年内の教員の資質・能力の向上 …… 日々の研修を共有し、学習指導や生徒指導の力量向上に努める。
- 情報の共有化による適切な指導 …… 個で抱え込まず、情報を共有してチームで指導に当たる。
- 学年経営を充実させる評価 …… 常に評価・反省を行い、現状に合った改善を行う。

(1) 学年としての教育目標（学年目標）を設定しよう

学年目標は、前年度の評価を十分検討し、児童生徒の学習面・生活面・家庭環境や年齢による発達段階及び学級担任の個性等学年の実態を踏まえた上で、学校教育目標、教員の願い、保護者や地域住民の願い等に基づいて設定する。また、学級の特色や創造性を尊重するため、学級担任の学級経営の構想を十分に反映させつつ、学年内の全教員が知恵を出し合い、協働してつくり上げていく。

設定した学年目標については、児童生徒一人一人にその意味を十分理解させ、同一步調で目標の実現に向けて具体的・継続的に指導を進めていく。学年行事や諸活動を計画する際には、学校全体や他学年の諸計画を念頭に、単発的な計画を避け、総合的・系統的に児童生徒の成長が見込まれる立案を心がけたい。

(2) 学年主任のリーダーシップとチームワークによる協働体制を整えよう

学年主任は、児童生徒一人一人の学校生活全般にきめ細かな配慮をするとともに、学級担任や教科担任との共通理解のもと、豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成に向けて同一步調で指導や対応ができるようにしなければならない。そのために、学年主任は長期的なビジョンをもって、学年

内の教員に指針を示し、提案ができるようにしたい。

学年が円滑に機能するには、一人一人の教員の力量や経験を生かした役割分担を行い、協働していくことができる体制づくりが重要である。そのためには、学年内の教員の前向きな人間関係づくりや、何でも相談でき、よいところも悪いところも認め合うことができる雰囲気を醸成する必要がある。学年が単学級あるいは2学級の小学校では、低・中・高学年のグループで互いに協力・協議し合う体制を構築するとともに、教務主任等とも連携を図るようにしたい。

(3) 教員としての資質・能力の向上を図ろう

授業力向上は教員の最優先事項である。授業研究を行う際には、指導が児童生徒の実態を踏まえたものであるか、指導方法は適切か、評価はねらいに即しているかなど、学年内で率直に意見交換できる場を設定したい。

生徒指導力の育成を図るために、教員間で定期的に情報交換を行い、問題の早期発見に努める。事案が発生した場合は、担任一人が問題を抱え込むことのないよう学年や学校全体の問題として捉え、関係する他学年の教員や養護教諭、スクールカウンセラー等からも情報や具体策が得られるような体制を整備しておく。そして、未然防止を図るため、生活アンケートや教育相談、心理検査、日々の記録等を定期的に収集・活用することで、常に児童生徒の実態把握に努めることが重要である。

教員は、何でも相談して共に動ける安心感と、互いに切磋琢磨^{せつさたくま}していく厳しさとをもち合わせた学年集団の中で、豊かな教育愛や感性を育み、自身の人間性を高めていくことを理想としている。そして、そのことが、豊かな心をもち、たくましく生きる児童生徒を育てることにつながることを忘れてはならない。

(4) 情報を共有し、児童生徒の適切な指導に努めよう

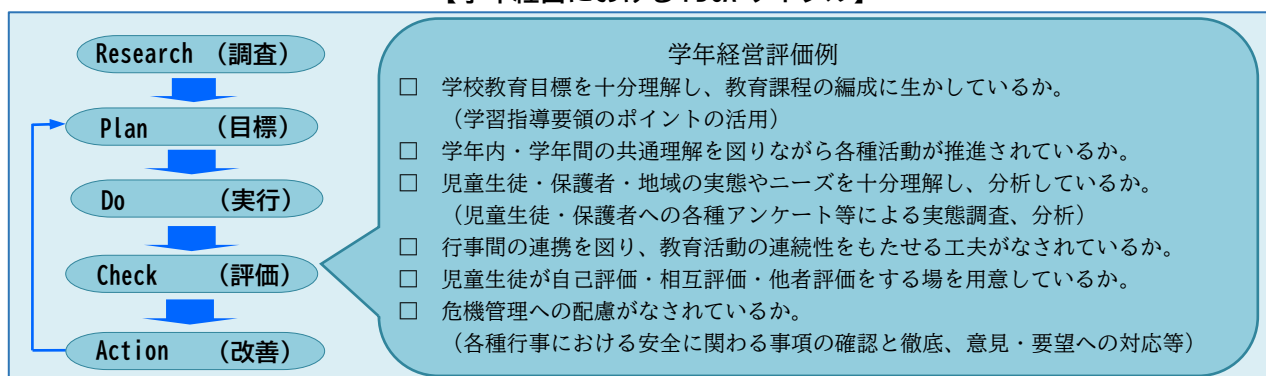
常に学年経営上の問題はないかとの課題意識をもって、児童生徒の生活実態をきめ細かく把握し、いじめや不登校、問題行動等の未然防止につなげたい。そして、学級担任や教科担任が得た児童生徒の情報を速やかに学年内で共有し、適切な指導に役立てたい。学年経営上の問題については、早期に発見し解決に至るまでチームで協力して対応することが重要である。緊密に情報交換を行い、共通理解を図る学年風土を醸成したい。

児童生徒に関する情報の共有においては、ICTを活用することも有効であり、より迅速で機能的な情報共有ができる場合も多い。その際には、個人情報の漏洩^{ろうえい}が起きないように、十分な注意が必要である。

(5) 学年経営を充実させる評価に取り組もう

様々な活動や指導の節目において、その評価を実施し、改善を図ることは、学年経営を充実させるために大変重要である。評価によって新たな目標を設定し、その目標を実現させるため、学年全体で積極的に取り組んでいきたい。

【学年経営におけるPDCA サイクル】



2 児童生徒一人一人の自己実現を支援する学級経営

学級担任は、学校・学年の経営方針と学級の実態を踏まえた計画を立て、児童生徒が主体的に学び、支え合いながら自己実現を目指す学級集団づくりに努めることが重要である。そのためには、児童生徒の創意工夫を尊重し、一人一人が自分らしく、生き生きと安心して活動できるよう、信頼関係のある温かい学級風土をつくる必要がある。また、保護者に対しては、学級懇談会やホームページ等で経営の方針について周知し、連携を図ることが大切である。

【学級経営を推進していく上での留意点】

- 学級目標の設定 …………… 学年目標を受け、児童生徒と教員の願いを踏まえ、学級会等において設定する。
- ルールづくり …………… 児童生徒の考えを生かしたルールをつくり、その徹底を図る。
- 仲間づくり …………… 心理的安全性が高く、互いのよさを認め合い、喜びを感じたり成就感を味わったりできる関係づくりに努める。
- 学びの場づくり …………… 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。
- 円滑な学級経営 …………… 児童生徒の気持ちや行動の把握に努め、すばやく適切に対応する。また、学級と家庭とが互いに協力し合う関係を構築できるように努める。
- 学級経営を充実させる評価 …… 機会あるごとに評価・反省を行い、学級目標達成に向けて現状に合った改善を行う。

(1) 児童生徒の意欲を喚起する学級目標を設定しよう

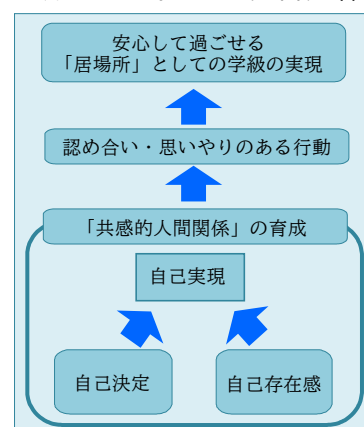
学級目標は、学校教育目標を具現化するための実践的な目当てである。学級の実態を十分に把握した上で、児童生徒の意欲を喚起する達成可能な目標を設定する必要がある。目標設定に当たっては、児童生徒一人一人の学級への思いや願いを取り入れ、自己有用感や自己肯定感等を得られるものにするとともに、日々の生活において「励みとなる目標」とすることが大切である。この目標は、シンボル化又はデザイン化して掲示するなど、常に児童生徒が意識できるものにするとよい。学級担任は、目標の具現化のために年間指導計画を立て、意欲の向上と目標達成に向けて適切な支援を行うとともに、目標の実現状況について評価を行いながら、支援の在り方を常に見直す必要がある。

(2) 規範意識を高めるルールづくりをしよう

学級担任は、児童生徒の規範意識や倫理観を高め、人として当たり前のことや正しい行いが認められる学級をつくる必要がある。そのためには、集団生活の基本となるルールづくりに児童生徒の考えを生かすとともに、児童生徒の自己決定の場を多く用意し、児童生徒が自己実現の喜びを味わうことができるよう指導の徹底を図ることが大切である。また、自然体験やボランティア活動等の体験活動を通した道德教育を進め、自由と規律、個と集団の関わりについての指導を充実させることにより、善悪の判断力や公德心を育てていくことも大切である。

(3) 共感的な人間関係に基づく仲間づくりをしよう

児童生徒が互いを認め合い、思いやりをもって行動し合うことで、学級に温かい雰囲気が醸成され、教室が安心して過ごせる「居場所」となる。学級担任は、「共感的な人間関係」を育むことで、一人一人の児童生徒にとって、学級が、心理的安全性が高く、成



就感を味わうことができる場となるように努めたい。そのためには、集団の一員として、安心して自分の力を発揮できるよう、日頃から、児童生徒に自己存在感を感受することができる場や自己決定の場を与えることが大切である。例えば、学級活動や行事の計画では、一人一人の意見を尊重し、話し合いで合意形成を図るよう心がけたい。こうした様々な場面で、児童生徒に対して、何が正しいかを判断し責任感をもって自ら行動できる力を養い、自己実現につながる成就感を味わわせたい。

(4) 信頼関係を深める学びの場づくりをしよう

学級担任は、児童生徒が学級集団の中で個性を発揮するとともに、互いに高め合い、活躍できる学びの場づくりを心がけていかなければならない。そのためには、一人一人の特性や能力等を的確に捉えていくことが必要である。

授業では、一人一人の思いや考えが学級で尊重されることが、互いの信頼関係を深め、学習への意欲を高めることにつながる。児童生徒同士が関わり合う場面を意図的に設定し、分らないことも共有し合えるような良好な人間関係の中で学べるよう配慮したい。

(5) 学級経営を円滑に進めよう

学級を円滑に機能させるためには、日頃から児童生徒の気持ちや行動の把握に努め、問題行動やいじめ、不登校等につながる小さな兆候を見逃さず、早期に対応していく姿勢が必要である。また、対応の際、学級担任は一人で抱え込むことなく、常に学年内の教員や管理職等に報告・連絡・相談し、学校全体で解決や改善に向けて取り組むようにしたい。

【学級を円滑に機能させるための手だて】

- 状況の正確な把握 … 児童生徒との対話や生活日記・アンケート・ICTを用いた毎日の記録等から、置かれている状況を的確に把握する。
- 協力体制の確立 …… 全教職員（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等を含む。）、保護者、関係機関と連携を図る。
- 問題解決への配慮 … 個々の児童生徒への対応や、相談活動の充実を図り、全校体制で問題解決に取り組む。
- 教員間の共通理解 … いじめ、授業妨害等に対しては、毅然とした態度で指導する。その経緯については、学年会等で共通理解し、同一歩調で指導に当たる。
- 分かる授業の構築 … 教科担任制、少人数指導、ティーム・ティーチング、学習内容の習熟に応じた指導、合同授業等、指導体制やねらいを正しく理解し、個に応じた指導の充実を図る。
- 資質・能力の向上 … よりよい学級経営のための研修に積極的に参加し、自己研鑽に努める。
- 教室環境の整備 …… 機能的かつ、一人一人が存在感・所属感をもつことができる温かい空間となるように努める。

また、日頃から、家庭との連携を密にし、学校と家庭が協力できる関係を築くため、児童生徒の活躍や成長が見られる姿等を機会があるごとに、家庭に伝えることも大切である。

(6) 学級経営を充実させる評価の工夫をしよう

学級目標は学級経営の評価の観点であり規準となる。評価する際には、担任による評価だけでなく、学級に関わる他の教員や児童生徒の評価も加味して実施したい。児童生徒自身が評価する際には、過去と現在を比較して学級の成長を実感できるように工夫することが大切である。また、評価は学期末等の節目ごとに行い、修正・改善が必要とされた点については、柔軟に対応していくことが求められる。